

子どもたちの育ちと心の安定 第3回 つながりがわかっていくこと

めまぐるしく動き、ちゃんと見ていない、ちゃんと聞いていない、スーパーなどで走り回っては陳列してある品物に触ったり、手に取ったり、落としてしまったりと、目が離せない、追いかけて回して止めるのが大変・・・というお子さんがいます。

一つのことを持続せず、次々と関心が移ってしまうので、これといったまとまった遊びになりにくいし、落ち着いて人とやりとりをするいとまもない、といった状態です。

このお子さんを見ていると、とてもめまぐるしく動くのですが、このようなお子さんにとっては、むしろ世界のほうがめまぐるしいのかもしれない。次々に目にとびこんでくるもの、耳にとびこんでくるものに気持ちに移ってしまい、気持ちの向けどころが定まらない、というような状態ではないでしょうか。

このようなお子さんは、賑やかなところとか、物がたくさん置いてあるところとか、人がたくさんいるところではなく、静かで落ち着いた環境の中においてあげることが大切です。その中で、興味に合わせていないに言葉をかけ、やりとりができるよう働きかけると、お子さんはその人に目を留め、そこに気持ちを傾けていき、自分はどうすればいいのか、どのように要求し、どのように応えればいいのかをわかっていくようになります。

このようなやり取りを通して、そのお子さんは、ばらばらでただ目まぐるしかった世界の中につながりとまとまりを感じ、人との間に安定した関係が持てるようになると考えられます。

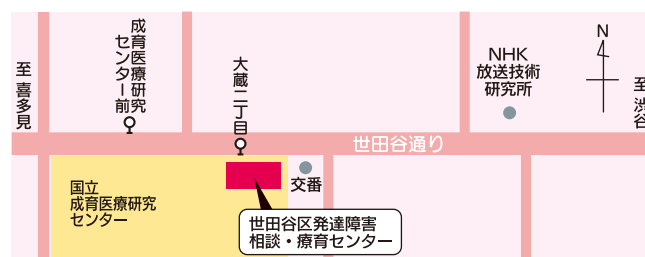
(世田谷区発達障害相談・療育センター 相談・療育主幹 喜多 民子)

世田谷区発達障害相談・療育センター

開所日時 月～土曜日（祝日及び年末年始を除く）
午前9時～午後6時

利用方法 利用は予約制です。利用を希望される方は、直接『世田谷区発達障害相談・療育センター「げんき」』へお電話にてお申し込みください。
〒157-0074 世田谷区大蔵 2-10-18
大蔵二丁目複合型子ども支援センター 2・3 階
TEL 03-5727-2235（代表）
03-5727-2236（相談専用）
FAX 03-5727-2238
URL <http://www.ryo-iku.jp>

アクセス



「成育医療研究センター前」「大蔵二丁目」バス停下車すぐ

- 東急バス・小田急バス
渋 24 成城学園前駅 ↔ 渋谷駅
- 東急バス
都立 01 成城学園前駅 ↔ 都立大学駅北口
等 12 成城学園前駅 ↔ 等々力操車所
用 06 成城学園前駅 ↔ 用賀駅
- 小田急バス
渋 26 調布駅南口 ↔ 渋谷駅
- 東急コーチ
玉 31・32 二子玉川駅 ↔ 成育医療研究センター

※駐車場はありません。

業務受託 社会福祉法人 嬉泉

〒156-0055 世田谷区船橋 1-30-9
TEL 03-3426-2323 FAX 03-3706-7242
URL <http://www.kisenfukushi.com>

編集後記

子育て体験懇話会の参加者からは「先輩お父さん、お母さんの子育ての経験からの具体的なお話が聞けて参考になりました」との声をたくさん頂きました。率直にご自身の体験をお話して下さった講師の皆様、ありがとうございました。

「発達障害の子の自立とは一人で立つことではなく、自分の不得意なことについては上手に周りにSOSを出すこと、そのためには得意なこと、苦手なことを自分でわかっていることが大切」（母親編司会者：えじそんくらぶの高山恵子代表）とのアドバイスもありました。

SOSに気付き、そっと手を差し伸べ、サポートしていけるような社会になっていって欲しいと改めて感じました。

Gpress

せたがや

<http://www.ryo-iku.jp>

第15号

2013年3月20日発行

「ジープレスせたがや」
GpressのGは愛称『げんき』のGです。

発行
世田谷区発達障害相談・療育センター

業務受託
社会福祉法人 嬉泉

発達障害のある子を持つ父親・母親の体験から学ぶ

子育て体験懇話会 開催

子どもをほめたいと
思ってもほめられない・・・

先輩お父さん、お母さんの
子育てはどんな感じ？

同じ障害の子をもつ
「おやじの会」に
思い切って参加

線が交わるのが
嫌だったんだね！！

情報のない時代、
学校で理解して
もらえるためには...

2ページ、3ページにて
紹介します。

世田谷区発達障害
相談・療育センター
って どんどころ？

世田谷区在住の発達障害のある方、またはその疑いのある方、その家族、関係者を対象としています。また、世田谷区の発達障害に対する支援を推進するための中核的な拠点施設として関係機関への支援や、広く区民の皆様に、発達障害について理解してもらうための活動をしています。

母親編

今号は子育て体験懇話会父親編(昨年12月開催)と母親編(今年2月開催)でのお話を再構成しました。

父親編



子どもをほめたいと 思ってもほめられない…

Aさん 大学生(AD/HD 注意欠陥多動性障害、広汎性発達障害の診断を受けている)の男性のお母さん

幼稚園で他の子どもと比べてはハサミが使えない、着替えが遅いと息子を叱ってばかり。
周りの無理解で息子が一番苦しかったのに、小学校、中学校でも、できないことを強いていました…。



Q どういうきっかけで息子さんのことを理解できるようになったのでしょうか

息子の行動がどうしてそうなるのかを勉強しました。理解できるようになるにつれて私自身も気持ちに余裕をもって子どもを見られるようになってきました。そして自分の育った環境の中にも、息子を理解できなかった要因があることに気づき、親も変わらなくてはと思えるようになりました。

今、息子は大学生。高校退学後に入ったフリースクールで「自分たちができることはサポートします。」という先生達に出会いました。理解してもらえたことで、自分本来の能力を発揮できるようになりました。そして自信を持って行動するようになりました。

子育て 体験 懇話会

発達障害のある子を持つ
父親・母親の体験から学ぶ

線が交わるのが嫌だったんだね！！

Cさん 中学生(広汎性発達障害)の男の子のお父さん



Q お父さんがその謎を発見したんですね？

いい先生にも恵まれましたね。和太鼓にチャレンジも。

保育園のとき、ひらがなに興味を示さないし、書くのを嫌がる。「なんでかな？どうしてだろう？」と思っていたのですが…。

見ていて、もしかしたらひらがなの線の交わるのが嫌なのかもしれないと思いました。交差があっても迷路だったら好きなのでそれをやっているうちに鉛筆にも慣れて、まず線の交わらない「し」「へ」が書けるようになり、交わりに慣れてだんだんにたくさん交差がある「あ」まで書けるようになりました。

小学校では和太鼓の大会に皆で毎年でしていました。うちの子は皆と合わせることが苦手なんです。和太鼓は音の振動が身体に響くから、その振動で叩くタイミングがわかる。そして、タイミングがあってくると周りの子様子にも気持ちが向くようになり、「この子の次に自分が叩く」ということもわかってきて、皆で合わせて叩けるようになりました。そんな取り組みを情熱的にしてくれる先生のおかげで学校生活も明るく過ごせました。



Bさん 大学卒業後、職業訓練校に通う長男(AD/HD 注意欠陥多動性障害と診断され、その後広汎性発達障害と診断が変わる)と大学生の次男のお二人の男性のお母さん

長男は小さい時から落ち着きがなく、「親の躰」が問われ、誤解を解くのに苦労しました。小・中学校の先生に病院に行き、主治医と面談して頂きましたが、理解は得られず、どうしたらいいか悩みました。

小学校の担任の先生に「AD/HDは知っていますが、AD/HDと診断された児童を目の前にするのは初めてです。」と言われました。まず始めに、先生にAD/HDのことを理解して頂けるように、私も先生と一緒に勉強して、常に情報交換をしました。昨年3月に大学を卒業して、現在は職業訓練校に通所しています。親は後方支援に回り長男とはよく会話をしています。

長男の育児が大変で、長男優先になってしまったことなど、いろいろな理由で、次男が小学校で不登校になってしまいました。中学校入学時には事前に次男のことを説明に行ったことで、先生方の理解が得られ、先生や友だちに支えられながら、不登校を克服することができました。

情報のない時代、
学校で理解してもらえるためには…



同じ障害の子をもつ 「おやじの会」に思い切って参加

Dさん 中学生(アスペルガー症候群)の男の子のお父さん



子どものことについて、言葉が遅いこともあり、妻はいろいろな面でとても気にして、勉強もしていました。でも気にはなっても私は仕事が忙しくてなんにもできない。妻には「私ばかり」「あなたはわかってない」と言われ、妻も相談する人もなくストレスがたまっていました…。

Q お母さんも大変でしたね…。でもお父さんも大変だった？

私は、同じ障害を持つ子の父親の集まり「おやじの会」のことは知ってはいたもののなかなか参加できませんでした。でも思い切って参加して、「そんなうちもだよ」という仲間と会うことで気持ちが安定しました。そして余裕ができてきたことで妻の大変さにも気持ちがいくようになりました。最近では学校の保護者会は私が行くようになっています。妻も「今まで何もしなかったけどちょっとは気にしてくれるようになったかな」と思ってくれているようです。妻も通級の父母会などで同じ立場の人と話すことでストレスを解消したようです。

Q とはいってもやはり仕事も大事です。職場の理解はどうですか？

仕事を一緒にする上司や同僚に、自分の状況について「大変そうだね」くらいの理解はしてもらえるよう話をしています。こちらから話をしていくことが大事ではないでしょうか。

この子等から育てられること

両親の発達障害のある子に行う子育てのご苦労を知れば知るほど、「発達障害とは」という解説書では見えないその親子関係の奥深さを感じさせられます。私がこの50年間関わり続けた自閉症の本人のみならず両親の関わり方の気持ちは目を見張る思いがしました。この子育てで出来る親の知見は、支援者としても学びの素になることが沢山あるのです。『この子育てあつての親育ち』と言いたいような養育歴を知ったことで、私も育てられました。

(父親編司会者 社会福祉法人嬉泉 常務理事 石井哲夫)